科目コード	61111	授業科目	保健看護管理・教育特論Ⅱ Nursing and Health Administration and Education　Theory　Ⅱ	担当教員	○嘉手苅英子 勝原裕美子（非常勤）
開講年次	博士後期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選　択(領域必修)	時間数	30時間				
授業概要	保健看護サービスシステムの現状とヘルスニードについて分析し、組織行動論、変革理論等を活用して保健看護管理に関する政策を分析・評価する力を養う。さらに、高度看護実践に対応するために、保健看護管理領域の新たな役割・機能を開拓する。 看護基礎教育および看護継続教育の歴史的変遷及び今日的問題について、諸外国との比較において我国の特徴を学ぶ。さらに、看護教育実践の土台となる弁証法及び認識論について具体例を取り上げながら学ぶ。				
到達目標	1．保健看護システムやマネジメント・リーダーシップ理論について保健政策との関連で分析する。 2．保健看護管理に関するマネジメント・リーダーシップの概念を統合する。 3．わが国における看護教育の特徴を諸外国との比較において論述できる。 4．看護継続教育の現状を社会背景との関連について論述できる。 5．看護教育実践の土台となる弁証法および認識論と実践の関連について説明できる。				

回数	授業内容及び計画	担当者名
第1回	ヘルスニードの優先度決定；看護管理の理論と実践の適用。	非常勤（未定）
第2回	ヘルスニードの分析（諸理論の活用）	非常勤（未定）
第3回	倫理的な管理行動に関する諸理論	非常勤（勝原）
第4回	保健看護管理領域における役割・機能の拡大	〃
第5回	保健看護管理に関する政策の分析・評価	非常勤（未定）
第6回	保健看護管理政策に関するマネジメント・リーダーシップ	非常勤（未定）
第7回	保健看護管理の情報に関するネットワーク	非常勤（勝原）
第8回	我が国の教育制度の特徴と看護教育	嘉手苅英子
第9回	〃	〃
第10回	我が国の看護教育制度の変遷と現在	〃
第11回	諸外国における看護教育制度	〃
第12回	看護継続教育の現状と課題	〃
第13回	看護教育実践の土台となる弁証法および認識論と実践との関連	〃
第14回	〃	〃
第15回	総括	嘉手苅／未定

テキスト	関連資料、文献などを適宜配布する。
参考文献	適宜、指定する
成績評価の方法	評価は講義への参加姿勢およびレポート等を総合して行う。
備考	講義はゼミ形式で行い、授業内容の順序や時間配分は，参加者の背景や理解状況に応じて適宜調整しながら進める。それぞれのテーマについて、あらかじめ提示された資料及び検索した文献を読んで参加し、発表、討議を通して理解を深める。

科　目 コード	61121	授業 科目	保健看護管理・教育特別研究Ⅱ Nursing and Health Administration and Education Special Study Ⅱ	担当 教員	◎嘉手苅英子 宮里智子

開講年次	博士後期課程 1～3年次	単位数	8単位	科目 分類	専門科目・特別研究	授業 形態	演習
選択・必修	選択（分野必修）	時間数	240時間				

授業概要	保健看護管理・教育領域における研究課題について取り組み、学位論文を形成するプロセスを通して看護学研究方法論を修得すると共に、看護学の発展に寄与する保健看護教育論を探究する。
到達目標	1. 自立して、研究プロセスを遂行できる。 2. 専門領域においてオリジナリティのある卓越した論文を完成できる。 3. 教育研究者・実践者としてふさわしい学問する態度を身につけることができる。 4. 教育研究者・実践者としてふさわしい倫理的態度を身につけることができる。 5. リーダーシップを身につけ、学際的チームの中で貢献できる。 6. 学問及び卓越した実践を通して社会的貢献ができる。

回　数	授　業　内　容　及　び　計　画	担当者名
1年次	4月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定 ＊ 履修指導、履修届の提出 ＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討 ＊ 研究倫理審査申請 ＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析	嘉手苅英子 宮里智子
3年次	10月（4月） 研究結果検討会・・・研究結果の検討 ＊ 主査・副査の決定 考察･論文作成 12月（6月） 博士論文 第1稿 ・ 学位審査申請書の提出 ＊ 1月（7月） 中間発表会 ＊ 博士論文 最終稿 の提出 ＊ 2月（8月） 論文審査・最終試験 ＊ 合否および修了判定 3月（9月） 公開発表会 ＊ 博士論文 保存版 の提出 ＊ ※（　）内は、前学期修了者の日程	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。
成績評価の方法	審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆答による）を行う。
備　考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。